本ペーパーの掲載情報は、ウェルココWebサイト掲載情報と一部内容が異なる場合があります。

ストレスチェック「Wellness Eye」

SBアットワーク株式会社

いきいきとした職場づくりに！組織改善に活かせるストレスチェック

https://www.softbankatwork.co.jp/lp/wellness-eye/

サービス分類・提供内容（選択式）			サービス概要・特徴（500文字以内）
体制・業務構築支援	産業保健体制構築支援		「Wellness Eye」は、東京大学 川上憲人研究室（当時）とソフトバンクグループの人事・労働安全衛生を支えるSBアットワークが共同開発した、ストレスチェックサービスです。 【主な特徴】 ①個人・組織状態を多面的に把握可能な設問 ・東京大学 大学院 医学系研究科 川上憲人 研究室（当時）との共同研究にて開発 ・新職業ストレス簡易調査票120問から抜粋して設問数を抑制、また、法定要件対応 ・健康意識調査やハラスメント調査、各社オリジナル設問追加可能 ②リスクだけでなく組織の「いきいき度※」を数値化 ・「総合健康リスク」「いきいき度」から会社・組織の状態を立体的に捉えることが可能 ③豊富でわかりやすいアウトプット ・基本料金内に含まれるアウトプットが豊富　・個人結果・組織結果ともにわかりやすいレイアウト ④充実したアフターフォロー ・結果を有効に活用いただくための各種フォローをご用意 ⑤使用しやすく、セキュリティも万全のサービス ・安全かつ効率的な実施を、システム＆運用体制でサポート
	健康経営推進支援		
	ストレスチェック制度対応支援	○	
	ハラスメント対策支援		
	過重労働対策支援		
	復職支援に係る体制・業務構築支援		
	人事・労務向けアドバイザリー		
調査・分析支援（人的支援）			
現状把握・分析システム	ストレスチェックシステム	○	
	パルスサーベイ・従業員意識調査		
	健康・労務データ統合分析システム		
組織づくり・職場環境改善	組織開発コンサルティング		
	管理職向け研修	○	
	従業員向け研修	○	
管理職向け個別支援			
従業員支援	相談窓口・カウンセリング		
	セルフケア研修		
	セルフケア支援アプリ		
	復職支援		

期待される効果		根拠の詳細		
【凡例*】◎:実証評価>○:導入企業の評価>●:理論的裏付け		導入企業の評価	理論的裏付け	実証評価
基盤整備	1. 法制度対応			–
	2. 制度・施策体系の整理			–
	3. 人事・産業保健業務の効率化・負担減	○		–
	4. 組織状況の把握	○		–
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上	○		
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上			
	7. プログラムへの参加率・利用率向上			
	8. 不調の早期発見・対応			
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	○		
	10. 仕事のストレス要因低減			
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上			◎
	12. 周囲のサポート力向上			
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善			
	14. 健康状態・心理指標改善			◎
	15. アブセンティーイズム改善			
	16. プレゼンティーイズム改善			
	17. ワーク・エンゲイジメント向上			◎
	18. 従業員エンゲージメント向上			
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）			

*ウェルココ上で掲載される際に複数の根拠がある場合は、凡例の優先順で表示されます。

導入企業の評価（500字以内）

設問が個人のストレスだけでなく組織の状態も把握できる内容で、画面も分かりやすく受検率が向上しました。
次に、結果レポートは個人・組織ともに視覚的で理解しやすく、データ加工の手間も省けました。特に「いきいき度」などの指標により、組織の課題や改善点が明確になり、経営層の意識も高まりました。導入後は社内の議論も活発化し、職場改善の起点として根付いています。

理論的裏付け（500字以内）

実証評価

学術介入の有無	エビデンスの水準
学術研究機関等が介在しない独自の効果検証	コホート研究（観察研究）

（学術介入有りの場合）氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名（500字以内）

実証評価の結果概要（500字以内）

ストレスチェック実施後、オプション研修サービスとしてハイリスク組織の組織長向け「職場環境改善研修」を実施。
ストレスチェックの結果理解、ラインケアの基本ステップ、メンバー支援のポイント、傾聴のポイント、組織開発のアプローチを学習してもらうプログラムで、それらの学習を通して自組織の改善を目的とする。

職場環境改善研修を受講した組織の改善状況を、翌年のストレスチェック結果で検証。下記3指標とも改善傾向が見られた
・高ストレス者比率（職業性ストレス簡易調査票短縮版23問基準）
・総合健康リスク
・いきいき度

受講者のアンケートコメント抜粋
・対話や共感の重要性について理解できた
・傾聴や対話を職場でも実践していきたい
・自分が上司に対して思っていることは、部下が自分に対して思っていることかもしれないと気付いた
・孤独じゃないんだと思えた

ストレスチェック「Wellness Eye」 SBアットワーク株式会社

様式3 導入企業の評価

該当する効果		
基盤整備	1. 法制度対応	
	2. 制度・施策体系の整理	
	3. 人事・産業保健業務の効率化・負担減	○
	4. 組織状況の把握	○
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上	○
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上	
	7. プログラムへの参加率・利用率向上	
	8. 不調の早期発見・対応	
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	○
	10. 仕事のストレス要因低減	
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上	
	12. 周囲のサポート力向上	
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善	
	14. 健康状態・心理指標改善	
	15. アブセンティーイズム改善	
	16. プレゼンティーイズム改善	
	17. ワーク・エンゲイジメント向上	
	18. 従業員エンゲージメント向上	
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）	

実施概要・結果

実施概要
・対象者：全社員約4,000人
・実施期間：2015年から現在まで年1回実施

結果
・受検率：90～95%の高い受検率を維持
・ストレスチェック実施後、個人結果、会社結果、組織結果を納品
・経営層への報告に加え、各組織長へのフィードバックを実施。各組織長が結果を確認しながら、組織結果コメント・アドバイス等を参考に、組織改善を実施する仕組みが根付いている。

成果・評価コメント ※「該当する効果」との対応がわかるよう（ ）内に効果のNoを付記する

Wellness Eyeを導入して実感したことがいろいろあります。
まず、1つ目は設問の良さです。個人のストレス状態を把握する項目が、非常に分かりやすく反映されており、従来のストレスチェックにはなかった組織の状態を把握できるプラスアルファの設問が設けられています。またシステム画面も分かりやすく、迷うことなく実施ができるようになり、受検率がアップしました。(5)
2つ目は結果レポートのわかりやすさと利便性です。個人結果では、ストレス状態をAからEで5段階表示するなど全社員が理解しやすい工夫がされており、効率的に社員のメンタルヘルスをフォローできます。また、組織結果に関しても、簡潔明瞭なレポートが組織ごとに出てきます。それまでは、収集したデータを加工するのに手間も時間もかかっていましたから、これは非常に大きなポイントでした。(3)
Wellness Eyeは、データの即時閲覧が可能な上に、個人結果、組織診断結果ともに分かりやすく、担当者としても手間がかからないので非常に効率的だと感じています。その点は、他のサービスに比べ大きなアドバンテージだと思います。導入にあたって、こうした様々な要素を他社と比較検討させていただきましたが、費用面も含めたトータルな評価でSBアットワークさんにお願いした次第です。

実施してから、新たに把握できたことも多かったため、経営層に対するストレスチェック結果報告書のかたちも新しいものに進化させていきました。それを受けて、会社の上層部から「会社として働きやすい職場に変えていくための取り組みを、更に行っていかなければならない」という意見が出たりと、それまで以上の反応が得られています。(9)

導入効果を最も感じたのは組織診断結果活用の時でした。Wellness Eye以外のストレスチェックでも、軒並み診断結果は、数字で表示されます。ただ、Wellness Eyeの場合は、そこから一歩踏み込んで、全国平均や全社平均との比較ができるのが大きいと思います。結果レポートもグラフや色付けを利用し、視覚的に理解できるため、見やすく、情報の共有もしやすい。また、組織の状態に即したポイントやアドバイスも詳細なコメントで提示されるので、組織間での議論や意見の交換も活発になったと思います。(4)

それから、組織診断結果の中にWellness Eyeの特徴である「いきいき度」という、組織の活性度を表す項目があります。目に見えにくい「ワーク・エンゲイジメントや働きがい」などを数値化し、他の項目と同じく全国平均、全社平均と相対的に比較できます。組織状態の良し悪しが、社員たちのモチベーションに大きく比例していることが分かるので、組織のあり方や課題への取り組み方を考える上で、大きな指標となりそうです。これは、Wellness Eyeだからこその導入効果だと思います。

評価者情報				
個社ごとの評価結果を根拠とする場合	企業名①	日本食研ホールディングス株式会社様	業種	卸売業、小売業
	部署名・役職		従業員規模	1,000人以上10,000人未満
	企業名②		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名③		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名④		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
	企業名⑤		業種	
	部署名・役職		従業員規模	
複数社からのアンケート結果を根拠とする場合	アンケート対象及び回答社数	1社のみのためなし		
	実施時期・方法	1社のみのためなし		
	主な設問内容	1社のみのためなし		

ストレスチェック「Wellness Eye」　SBアットワーク株式会社

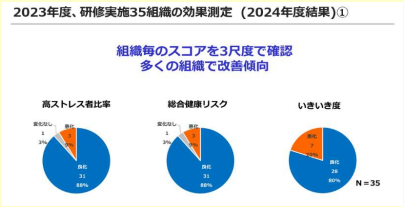
様式5 実証評価

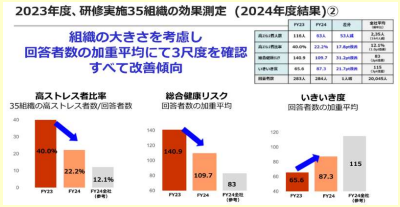
実証デザイン	介入・観察対象	ストレスチェック実施後、オプション研修サービスとしてハイリスク組織の組織長向け「職場環境改善研修」を実施。 ストレスチェックの結果理解、ラインケアの基本ステップ、メンバー支援のポイント、傾聴のポイント、組織開発のアプローチを学習してもらうプログラム。それらの学習を通して自組織の改善を目的とする。 **観察対象** 情報通信企業（2023年のストレスチェック）でハイリスク組織（総合健康リスク120以上、いきいき度※80以下）に該当する35組織の組織長 ※「いきいき度」は「ワーク・エンゲイジメント」と「職場の一体感」から導く当社独自の指標
	介入・要因	ハイリスク組織向けの「職場環境改善研修」を実施
	比較対象	前年のストレスチェック結果
	アウトカム	高ストレス者比率（職業性ストレス簡易調査票短縮版23問基準） 総合健康リスク いきいき度 ※「いきいき度」は「ワーク・エンゲイジメント」と「職場の一体感」から導く当社独自の指標
	エビデンスの水準	コホート研究（観察研究）
学術介入	学術介入の有無	学術研究機関等が介在しない独自の効果検証
	（学術介入有りの場合） 氏名・所属・専門、掲載文献・発表した学会・演目名	

該当する効果		
取組の普及・浸透	5. サーベイ受検率向上	
	6. 相談窓口の利用率・認知率向上	
	7. プログラムへの参加率・利用率向上	
	8. 不調の早期発見・対応	
	9. ヘルスリテラシー・意識向上	
	10. 仕事のストレス要因低減	
	11. 心理的安全性・上司のサポート力向上	○
	12. 周囲のサポート力向上	
心の健康・業務パフォーマンス	13. 生活習慣の改善	
	14. 健康状態・心理指標改善	○
	15. アブセンティーイズム改善	
	16. プレゼンティーイズム改善	
	17. ワーク・エンゲイジメント向上	○
	18. 従業員エンゲージメント向上	
	19. 労務指標改善（離職率、残業時間等）	

実証結果

組織毎のスコアを3尺度で確認、多くの組織で改善傾向

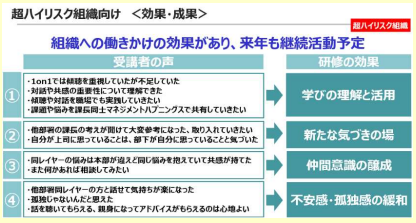




アンケート結果

研修活用度：非常に活用できる（45.0%）、活用できる（51.0%）、どちらでもない（2.0%）、あまり活用できない（2.0%）
満足度：非常に満足（52.9%）、やや満足（37.3%）、どちらでもない（7.8%）、あまり満足していない（2.0%）

参加者感想抜粋



上記の結果から、本プログラムは、組織長のメンタルヘルス理解向上、組織のメンタルヘルスリスク改善に有効である可能性がある